

戦士と言うわけでした。南方などに行かず本当によかった。また戦後、それが鉄工所をやる「きっかけ」となり、私にとっては大変有意義であった。昭和五年以来、兵役の三年ほどを除けば、足掛け十四年三菱重工の御世話になった次第です。

航空無線隊として

群馬県 貝瀬喜武

私は大正十二（一九二三）年十月十三日、四人姉の長男として生まれました。父は教員でした。沼田小学校二年の時、父はふとした病で亡くなってしまいました。父が亡くなった後、子供四人を抱えた母は助産婦として働き、私達を育てていました。私は小学校を卒業すると東京に出て、東京発動機株式会社に勤務することになりました。

昭和十八年徴兵検査で甲種合格となり、入隊する日を心待ちにしていました。昭和十九（一九四四）年三月三十日、新潟県高田市の航空隊に入隊するようにとの通知が来て、勤めていた会社の皆さんから激励の送別会を開いて頂いて、勇躍航空隊に入隊しました。この部隊は北方のアッツ島で玉砕した山崎部隊長の後に出来たという部隊でした。

私はこの航空隊に入隊して無線係に編入されました。一期教育も終わった七月上旬、各中隊より二、三人ぐらい、全国より三十人ぐらいが集められて無線部隊が編成され、水戸航空隊に転属することとなりました。

通信隊の教育は、一日にモールスを三文字づつ習い、三日目からはそれが九文字となり、ピーピーと頭が混乱してしまいます。私はエンジンが本職であったため、通信だけの人よりはうるさく言われませんでした。無線の本場は中野無線学校で、ここでは卒業までは三年かかるのですが、それを僅か四カ月ぐらいで覚えなければならず、詰め込み教育で本当に大変でした。

八月中旬に福岡航空隊に転属となり、九月上旬には、今度は大刀洗航空隊に転属となりました。この航空隊は陸軍の特攻隊基地であったために度々米軍機の空襲があり、その度に多大の被害を被っていたのでした。無線施設も同様に被害に遇い、そのため同年十月末には福岡の本部に帰るこ

とになりました。戦局はいよいよ芳ばしくなくなり、とくに南方戦線では、玉砕の悲運に見舞われる島々が出て来て、我が軍の航空能力も低下してしまつたのです。

そして昭和二十年二月下旬には四国の高松航空隊に転属となり、ここで無線業務に従事していました。私は転属が続き、同年三月下旬までは鳥取県の米子海岸の航空隊に転属して無線情報を業務としていたのですが、八月十五日の終戦となり同年九月中旬に郷里に帰りました。郷里の沼田には空襲の被害もなく、皆無事でした。帰郷後写真店を開業し現在に至っています。